

工場環境保全

水、空気、騒音、振動など事業所とその周辺の環境を守るため、拠点ごとの自主的な取り組みが成果をあげています。

方針

事業所および周辺の環境負荷を低減するため、各事業所・工場では、環境関連法の遵守とともに環境保全活動を推進しています。製造活動が水や空気を与える影響、騒音・振動などをチェックし、改善活動に努めるとともに、工場の維持に必要な水も大切に使用していきます。

しくみ

水質(排水)規準値一例 研究所 厚木地区

(単位:mg/ℓ)

項目(抜粋)	国基準	厚木市下水道条例	自主基準
水素イオン濃度	5.0~9.0	5.0~9.0	5.2~8.8
カドミウム及びその化合物	0.1	0.1	0.01
ヒ素化合物	0.1	0.1	0.05
シアン化合物	1	1	0.5
鉛及びその化合物	0.1	0.1	0.05
全クロム	2	2	0.5
銅	3	3	1
亜鉛	5	3	1
鉄	10	10	2
フェノール類	5	0.5	0.4
マンガン	2	2	0.5
フッ素	8	8	7

下水道法

事業所ごとの自主基準に基づく活動に継続的に取り組んでいきます。

富士通では、各事業所単位で工場環境保全のための自主基準を設け、独自の取り組みを進めています。たとえば研究所(厚木地区)では、排水中に含まれるフッ素濃度を除去するために高度フッ素処理設備を導入し、自主基準値7mg/ℓ未満を維持しています。

実績

水関係

富士通グループ 水のインプット/アウトプット表

使用量	富士通 (14,473,239m ³)	国内グループ (11,946,198m ³)	海外グループ (2,712,189m ³)	合計量 29,131,626m ³
排水量	富士通 (13,432,381m ³)	国内グループ (9,773,073m ³)	海外グループ (2,106,964m ³)	合計量 25,312,418m ³

(単位:m³/年)

	富士通	国内グループ	海外グループ	合計
上水	6,349,934	4,736,810	2,161,902	13,248,646
工業用水	7,153,596	2,043,017	238,927	9,435,540
地下水	969,709	5,166,371	311,360	6,447,440

緊急事態への対応

熊谷工場では、万一の事故を想定した訓練を定期的実施し、対策のための手順を確認しています。



フロン漏洩処理の訓練風景(熊谷工場)

大気関係

窒素酸化物

燃料などが燃焼する際に発生します。主な発生源は工場・事業所、自動車ですが、家庭用の燃焼機器からも発生します。

硫黄酸化物

石油、石炭など主に化石燃料を燃焼する時に、同時にその中に含まれる硫黄が燃焼して発生します。

(単位:トン/年)

	富士通	国内グループ	海外グループ	合計
窒素酸化物	149	368	288	805
硫黄酸化物	114	186	288	588

オゾン層破壊物質の全廃

製造工程(部品洗浄や溶剤)におけるオゾン層破壊物質については、使用全廃を完了しています。空調設備(冷凍機)に使用されている冷媒用フロンについては、漏洩対策を行うとともに、設備の更新時に非フロン系への切り替えを進めています。

オゾン層破壊物質全廃実績

オゾン層破壊物質	全廃時期
洗浄用フロン (CFC-113, CFC-115)	1992年末
四塩化炭素	1992年末
1,1,1-トリクロロエタン	1994年10月末
代替フロン(HCFC)	1999年3月末

水資源有効利用

富士通グループでは、水資源を大切にすることを働きかけ、水のリサイクルやリユースを積極的に推進しています。



雨水のリユース事例